福岡県社会福祉協議会　広報誌

ふくおかのふくし 147号

Sep.2014

Welfare of Fukuoka



今　号　の　内　容

○ 特集　人材確保と育成の秘訣（後編）
○ 福祉のしごと就職フェア2014 in FUKUOKA　開催報告
○ 社会福祉施設役職員研修 管理系研修Ⅰ　開催報告
○ 今年も始まります！赤い羽根共同募金運動
○ 地域の福祉教育を考える
○ 社会福祉法人の地域貢献を考える
○ ふくふくニュース

赤い羽根共同募金運動 記者発表会を開催

（５・６頁掲載）

じぶんの町を良くするしくみ
赤い羽根共同募金

この広報誌は、一部共同募金の配分金を受けて発行しています。

特集

人材確保と育成の秘訣

後編

介護・福祉の現場において、人材をどう確保・育成していくのか。今号では、将来を見据えた介護人材の確保に向けた取り組みを紹介します。

子どもの時から介護を考えるきっかけづくり

福岡県老人福祉施設協議会 次世代委員会 福岡市ブロック（以下、福岡市委員会）では、未来の介護の担い手を育成する取り組みを始めています。（次世代委員会とは、福岡県内の特別養護老人ホームや養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ケアハウス等で働く次代を担う若手職員の組織で、平成21年から活動しています。）

この福岡市委員会では、**増え続ける高齢者に対して介護をする若者が減少している現状を重く受け止め、次世代の介護を担う子ども達に介護職を志す動機を感じてもらえるような取り組みが必要**だと考えてきました。

委員の一人で特養マナハウス（西区）の小金丸 誠 施設長は、**「児童期に高齢者介護に関わった原体験により、将来高齢者介護に携わる職業を選択する割合が高い」**と言います。

高齢者のことを学んだうえで交流することがポイント

その一環として、特養いきいき八田（東区）では、毎年校区内の小学生に対して、介護教室を行っています。

まず、高齢者への理解を深めるために1回目は職員が小学校に出向いて、「老い」や「認知症」、「介護」について映像や写真、絵等を交えながら伝えます。2回目は小学生が施設を訪問して、高齢者が暮らす施設とはどのような所なのかを学んだ上で、最終回として高齢者と触れ合う教室を行っています。

単に高齢者と触れ合うのではなく、知識を得た上での触れ合いは、充実したものとなります。小学生が自ら考え触れ合うために将棋やオセロ、折り紙、ゲームといった材料を準備します。

その結果、高齢者に喜んでもらえることに喜びを感じるとともに、それが原体験として子ども達の心に残ります。



小学校での介護教室



施設の利用者と小学生の交流

子どもが認知症サポーターに

さらに、同委員会では、小学校4年生の総合学習に「福祉」の時間があることに着目して、子ども達が認知症高齢者の理解を深められる**「認知症“キッズ”サポーター養成講座」**を福岡市内の小学校で開講しています。

先日開講した講座では、講義とDVD鑑賞の後に、クラス毎に分かれ、テーマに添ってグループ討議を行い、意見を発表してもらいました。子ども達に「給食を食べたのを忘れてしまったら？」といった身近な質問等を投げかけると、「忘れたら優しく教えてあげれば良いよ。」、「家から持ってきてあげる」等、とても純粋で感性が豊かな発表がありました。

最初は認知症という名前すら知らない子ども達が、認知症は誰にも起こりうる脳の病気であること、正しい知識を持ち、認知症の人や家族を支える手だてを知ることで「尊厳ある暮らし」をみんなで守ることができます。

講師役の一人は、「現在推進されている『地域包括ケアシステム』の構築で地域の見守り体制を作っていくためにも、**まずは子ども達に認知症高齢者を理解してもらうことが大切**だと感じています。そして、認知症サポート養成講座を受講したことを機に将来介護の仕事を志すきっかけとなれば幸いです。また、将来的に高齢者福祉施設が校区内の小・中学校を担当して、出前講演や認知症サポーター養成講座を開講出来ることを目標としています。」と思いを語りました。

県次世代委員会の委員長も務める鶴田 聖二 氏（特養恵風苑／早良区）は、「実際に養成講座を開講するにあたり、小学生に理解できるかどうか様々な心配や不安はありましたが、**講義を真剣に聞く姿や認知症に対する柔軟な意見や発想を聞いて、福祉の明るい未来を肌で感じることができました。**これからも継続した活動が必要だと確信しています。」と話されていました。

福岡市次世代委員会では、今後、市や市教委との連携も視野に入れながら、活動していくこととしています。



認知症キッズサポーター養成講座

外国人介護職員を受け入れて

現在、EPA（経済連携協定）を通じて一部の国の看護師や介護福祉士候補生を受け入れていますが、政府は介護分野でのさらなる外国人労働者の受け入れを検討しています。

このような中、**社会福祉法人寿泉会（朝倉市）**では、現在6名のフィリピン人の介護職員を受け入れ、老人保健施設で日々のケアを行っています。

フィリピン人介護職員を受け入れたきっかけは？

「少子高齢社会と人口減少社会に直面している日本では、**将来介護の仕事を日本人だけで支えていくのが不可能**だと判断し、平成22年度からEPAによるフィリピン人介護福祉士候補生の受け入れを決めました。」そう語るのは、寿泉会の稲葉 圭治 統括本部長です。稲葉本部長は、前職でフィリピン駐在の経験もあり、フィリピン人の献身的な対応が介護に向いていると言います。

受け入れる前は、職員の不安が大変大きかったそうです。


国家試験に合格したリネットさん

そのため、職場内研修や学習会を頻繁に行い、外国人に対する苦手意識をなくし、フィリピンのことを理解することに努めました。

また、フィリピンのミンダナオ国際大学と協定を結び、法人職員をフィリピンに派遣し、現地の学生等との交流を通して、徐々に不安もなくなったとのことです。

支援の甲斐あり、一名が見事介護福祉士国家試験に合格。

平成22年度に入国して、3年で国家資格に合格したリネットさんは、流暢な日本語で試験合格までの道のりを教えてくれました。

「法人で月・水・金の週3回3.5時間、日本語学習と国家試験対策を勤務時間内に行いました。仕事を終えてからも毎日2時間以上は学習し、特に**過去問題を繰り返すことが重要**だと感じました。苦手な科目は、『社会の理解』。フィリピンにはない社会保障制度を理解するのが難しかったです。介護技術は、法人内の特養や老健で実践を通じ、業務の中でしっかりと学んできました。」

法人としては、日本語教師を雇い、候補生の学習支援のほか、在日外国人向初任者研修等の外部研修の受講支援等も行っています。

さらに、生活面での支援も欠かせません。日本人職員が食事や買い物に一緒に出掛けたり、日曜日に教会に連れて行ったりと、様々な場面で親睦を深めています。

また、徒歩5分の場所に宿舎を準備し、生活に困ることがないよう支援しています。



外国人受け入れのメリット・デメリットを理解して

同法人広報企画担当の井上 亜樹菜さんは、「フィリピン人は、陽気で、職場の雰囲気が随分と明るくなり、入所者様からも大変気に入っていただいています。特に、**入所者様に親しく接する距離感は日本人にない魅力の一つ**です。」と語ります。

その一方で、難しい面もあるようです。文化の違いや生活習慣の違いで、フィリピンでは当たり前にやっていたことが日本では通用しないこともあり、きちんと相手に伝え、納得してもらうことも必要になります。

「まだ受け入れていない施設やこれから受け入れようと考えている施設は、不安が大きいかと思いますが、**職員の成長にもつながるので、まずは受け入れにチャレンジ**してください。」と稲葉本部長は強調します。

外国人定着のために必要なこと

また、稲葉本部長は次のように言います。

「**外国人を協働のパートナーとして受け入れることは、今後必要不可欠です。しかし、4年以内に国家試験をパスしなければ母国に帰らざるを得ない今の制度に疑問を感じています。日本自体が支援を必要としている立場であるのに、他国より優位な視点に立つ考え方では、働く側の外国人から見限られてしまいます。そうならないためにも、日本が苦手とする移民受け入れを含めて外国人の視点に立った対策が必要になると考えます。**

また、受け入れる施設側のネットワークづくりも必要です。情報交換を通じて、様々な課題解決に繋がり、外国人が安心して就労できる環境を作ることができると感じています。」

これからの日本の介護現場を支えていくうえでも、外国人の受け入れは、介護人材不足の一つの解決策となり得ると考えられます。


寿泉会で働くフィリピン人介護職員のみなさん



福祉のしごと就職フェア2014 in FUKUOKA
600人超が就職活動!!

本会では、去る8月8日（金）に春日市のクローバープラザで「福祉のしごと就職フェア2014 in FUKUOKA」を開催しました。近年の福祉人材不足の影響もあり、県内163の社会福祉施設・事業所から2040人の求人がありました。

事業所の独自性をPRして求職者にアピール！

就職フェアに参加する施設・事業所は、事前にセミナーを2回受講し、日頃から採用活動を行う上で必要な考え方や就職フェアに向けたロールプレイング等を行い、しっかりと準備して当日を迎えました。

その成果もあり、各ブースにおいて採用担当者が独自のカラーを出した採用活動を行いました。施設・事業所の「らしさ」をパンフレットやタブレット等を使用して、積極的にPRしていました。

また、親しみ易いようブースに装飾等の工夫を凝らし、来場者の積極的な呼び込みも行いました。

今回の就職フェアには600名を超える学生・一般求職者が来場し、会場は熱気に包まれていました。

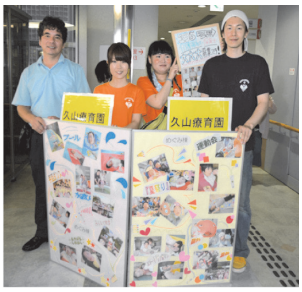
求職者は当日に配布された就職情報誌で処遇面等を確認しながら、就職にあたっての悩みや疑問点、また、事業所の将来ビジョンを確認する姿が見受けられました。





各事業所の説明にも熱が入ります！





当日は、面談前に「就活応援セミナー」も実施。**株式会社リクルートキャリア　門野　友彦**　氏から福祉・介護分野が未来産業であることや自分に合う職場を探すポイント等をご講義いただき、参加者はこのことを踏まえて就活に臨みました。

本会では、毎年2回開催する就職フェア以外に福岡県福祉人材センターでの相談や月1回程度ハローワークでの福祉・介護分野の就職および資格に関する相談を行っています。

福祉・介護分野への就職等をお考えの方は、ぜひお気軽にご相談ください。

県内各地で職場説明会を開催!!（今後の予定）

福祉の職場ホリデイガイダンス

参加無料

◎10月26日(日) 12時～15時
ウィズゆくはし(行橋市中津熊501-1)

◎11月 2日(日) 13時～16時
サン・アビリティーズいいづか(飯塚市柏の森956-4)

福祉のしごと就職フェア2015 in FUKUOKA

◎ 2月 6日(金) クローバープラザ

【問い合わせ先】　(月曜日を除く)
福岡県社会福祉協議会 人材・情報課
☎　092－584－3310

社会福祉施設役職員研修　管理系研修Ⅰ　開催報告

離職防止と人材育成のためには労務リスクの把握が急務！

本会では、去る7月26日（土）と8月26日（火）に春日市のクローバープラザで社会福祉法人に所属する役員や施設長・管理者等を含む管理職約300名を対象に、「社会福祉法人の経営における労務管理～トラブルとリスクを学ぶ～」をテーマにして労務管理の研修を開催しました。

全国的な総合労働相談件数が6年連続で100万件を超え高止まりが続いている状況の中、社会福祉法人の職場でも労働トラブルが発生する可能性があります。

そこで、**広島総合社会保険労務士法人代表　石井　孝治　氏**を講師に招き、各種労働トラブルとその対策について、詳しい事例を交えた講義をいただきました。



チェックリストを用いた分かりやすい講義


広島総合社会保険労務士法人代表　石井　孝治　氏

労働トラブルには、職場でのパワーハラスメント・セクシャルハラスメントを含むいじめ・嫌がらせや解雇、自己都合退職、賃金等の労働条件の引下げ、サービス残業等の未払残業代等様々なものがあり、これらは組織経営に影響を及ぼします。それを引き起こす雇用側の原因として、不適切な組織体制や労務管理知識の不足、認識の甘さが指摘されます。

そのため、労働トラブルをできるだけ未然に防ぐための次の6つのポイントを講師が示されました。

①適切な初期対応と事後処理
②就業規則の整備と運用
③職員間の日頃のコミュニケーション
④情報源と相談先の確保
⑤職員を育てる「人事制度・キャリアパス」構築と運用
⑥経営管理層の人事・労務管理への理解

また、この研修では、各施設・事業所の労務管理の現状を分析するために、労務リスクを項目化したチェックリストを使用し、**予測される労働トラブルのリスクを洗い出し「見える化」を行いました。**

「たいへん分かりやすく参考になった」という感想が多く寄せられ好評でした。

マンパワーを必要とする職場にもかかわらず、先日も介護労働実態調査（２０１３年）で介護事業所の56.5％で人材不足という結果が公表されましたが、福祉業界全体で人材が不足している危機的な現状を認識し、離職防止、人材育成の観点からも、労務リスクの把握と対策を各法人で講じることが急務となっています。

本会では今後の研修でも労務管理について継続的に取り組んで行きます。

また、社会福祉施設の役職員を対象に階層別研修を毎年行っており、引き続き人材育成と円滑な組織作りを支援していきます。


熱心に受講する参加者

【問い合わせ先】
福岡県社会福祉協議会　研修課
☎ 092-584-3401

じぶんの町を良くするしくみ ～地域で役立てられる共同募金～

10月1日から12月31日まで 今年も始まります！ 赤い羽根共同募金運動

共同募金運動は、民間の社会福祉事業を支援するため、住民主体の自主的な活動として、１９４７年（昭和２２年）、全国的に始まり、今年で６８回目となります。

皆様にご協力いただいた募金は、その約７５％が集められた地域に還元され、地域の様々な福祉課題の解決を目指して実施される福祉活動に活用されています。

○地域で行われる福祉活動
- 高齢者の生きがいづくり活動
- 子育て支援活動
- 福祉教育の推進

○県域での福祉活動の支援
- 福祉施設の備品整備
- 福祉車両の購入

○大規模災害時のボランティア活動の支援

近年、募金実績は全国的に減少傾向にあります。そこで福岡県共同募金会（会長 小川 弘毅）では、共同募金運動を親しみあるものとするため、広報・啓発のために活用する**「赤い羽根キャッチフレーズ」**を、福祉教育の一環として小中高生を対象に募集し、最優秀作品については、その年のポスターやチラシ等に掲載し広報活動に活用しています。

また、平成２４年度から、**福岡ソフトバンクホークスの本多 雄一**選手（福岡県出身）に、**『赤い羽根応援大使』**にご就任いただき、共同募金運動の広報啓発等にご協力いただいております。

今年も**１０月１日からの運動開始**に向け、平成２６年度赤い羽根キャッチフレーズ最優秀作品と、本多 雄一選手を起用したポスターや、福岡ソフトバンクホークスのご協力

平成26年度赤い羽根キャッチフレーズ 最優秀作品

幸せを　羽根にたくして つなげよう　・・・赤い羽根共同募金

大場　智瑛　さん
福岡県立八幡中央高等学校２年（八幡西区）

キャッチフレーズにこめられた想い…
「幸せは空の上にあると思いました。みんなが幸せをつかみとれるように、赤い羽根に託したいと思います。」



左からポンちゃん、大場さん、ハリーホーク、小川会長



小川会長からハリーホークへ感謝状の贈呈

福岡ソフトバンクホークス選手会と球団　福岡県共同募金会を通じ、被災地広島に義援金



８月１９日からの大雨等により甚大な被害を受けられた広島の方々に対し、福岡ソフトバンクホークスの選手会と福岡ソフトバンクホークス球団から義援金２００万円をお預かりしました。

同選手会と球団を代表して松田宣浩選手会長は、「広島出身選手もおり、全員大変心配しています。一日も早い復興を祈っています。」と述べました。

お預かりした義援金は、本会から広島県共同募金会を通じて広島の被災された方々にお届けします。ありがとうございました。

のもと、球団キャラクター（ハリーホーク）と赤い羽根がコラボしたオリジナルバッジ等の発表会を去る９月４日（木）に福岡ヤフオクドームで開催しました。

今年は、赤い羽根キャッチフレーズの最優秀作品を受賞した八幡中央高校２年の大場 智瑛 さんとハリーホーク、ポンちゃん（本多 雄一 選手を模した着ぐるみキャラ）にも同席いただき、賑やかな発表会となりました。

また、当日は、怪我のため発表会を欠席された本多選手からも応援メッセージをいただき、披露しました。

本多選手からの応援メッセージ

今年も共同募金の応援大使に任命いただき、本当にありがとうございます。

困っている人の力になりたいという思いは常にありますので、福岡県共同募金の活動に少しでも貢献できているのならば、僕自身も本当に嬉しく思います。

また、この応援大使就任は、毎年僕自身のパワーとモチベーションの源にもなっています。

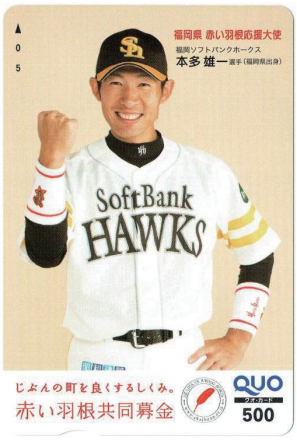
今は怪我の治療中ですが、一日でも早く復帰し、優勝へ向けてチームの力になれるように頑張りたいと思います。

今年度の福岡県の目標額は、**6億4781万1863円**です。

皆様の温かいご支援、よろしくお願いいたします。



バッジ・図書カード・クオカード



平成２６年度　福岡県共同募金会限定オリジナルグッズです。
お申込みは、福岡県共同募金会または、各市区町村支会まで。

ご存知ですか？ 受配者指定寄付金

寄付者（個人・法人等）が寄付先（社会福祉法人等）と使いみちを指定して都道府県共同募金会を通じて寄付する場合、一定の**税制優遇**を受けることができます。

ただし、財務省の指導による都道府県共同募金会並びに中央共同募金会の審査・承認を経た寄付金が税制優遇の対象となります。

○寄付金の使いみちは　次に該当すること

・土地の購入
・土地の現物寄付（法人寄付のみ）
・施設の新築増築改築等工事費
・土地の造成等土木工事費
・設備・備品の整備費
・福祉医療機構借入金の償還など

○緊急に資金が必要であること

対象事業の事業計画や資金計画が整っており、すでに業者等との契約が交わされていること。資金計画では、補助金・借入金が予定されている場合、それらが決定し、最終的な自己資金が決定していること。

審査には、寄付額により異なりますが、寄付額の約３％を審査事務費として寄付者に負担いただきます。

詳しくは左記まで。

【問い合わせ先】
福岡県共同募金会
☎０９２－５８４－３３８８

○受配者（寄付を受ける法人）は、社会福祉事業（社会福祉法第２条）または、更生保護事業（更生保護事業法第２条）を行う法人

・施設建設時に借りた福祉医療機構借入金の償還の財源に
・補助金を受け、社会福祉施設を建設する際の建築資金に
・会社所有の土地を新しく建設する社会福祉施設に
・社会福祉施設の建設用地購入のための資金に

審査対象となるには、次の要件を満たしていることが必要です。

子ども向け徘徊模擬訓練を実施

～筑紫野市社会福祉協議会の取り組みから～

去る８月９日（土）に夜須高原青少年自然の家（筑前町）で、筑紫野市社協主催のサマーボランティアスクール（第２回）が行われ、１０名（小学生７名、中学生３名）が参加しました。

子ども達は、「認知症ってなぁに？～私たちにできること～」というテーマに、午前中は、「筑紫野市介護を考える家族の会」の世話人の方から、若年性認知症に関する絵本の朗読や寸劇の鑑賞を通して、認知症はどのような病気なのか、認知症の方にはどのように接したらいいのか、ということについて学びました。



筑紫野市介護を考える家族の会
世話人代表　山下　信行　氏



子どもたちが行方不明者役の方に声をかけている様子

午後には、児童版徘徊模擬訓練（人探しゲーム）が行われました。

認知症の方が行方不明になられたという想定で、参加者を３つのグループに分け、行方不明者の情報（身長、体重、行方不明時の服装等）を手掛かりに、行方不明者を見つけるというもので、子ども達は、初対面の大人に話かけるのに緊張しながらも、午前中に学んだ声のかけ方を実践し、グループ内で協力しながら、何人にも声をかけ、行方不明者を探していました。

参加した子ども達は、「声をかけるのは、すごく緊張したけど楽しかった。」という感想を語っていました。

地域を福祉教育のステージに！

平成26年度福祉教育セミナー開催

本会では、去る８月21日（木）に春日市のクローバープラザで「平成26年度福祉教育セミナー」を開催しました。

すべての人が「ともに生きる」地域を実現するため、地域住民や学校関係者、ボランティア活動者、専門職などが協働し、お互いに学び合う体系的な福祉教育を推進することを目的に、社協や学校関係者、地域活動実践者等110名が参加しました。

講義

講師には**日本福祉大学 教授の原田 正樹 氏**を迎え、**「福祉教育の『今』と『これから』」**と題して、福祉教育の基本的な考え方、ＩＣＦ（国際生活機能分類）の考え方を含めた福祉教育の協働実践に必要な視点についてご講義いただきました。



日本福祉大学
教授 原田 正樹　氏

パネルディスカッション

講義の後、**「地域を福祉教育のステージに」**をテーマにパネルディスカッションを行いました。

志免南小学校 教頭 横尾 優子 氏と社会福祉法人柚の木福祉会 福祉創造塾 ふれあいの部屋 塾長 藤田 智絵 氏から、志免南小学校内にある『ふれあいの部屋』（福祉作業所）との交流の取組みについて報告いただき、その後、美浜町社会福祉協議会（愛知県）主査 櫻井 悟 氏から、地域自立支援協議会や学校（教育委員会）と一緒に進めている福祉教育の取組みについて事例報告をいただきました。

原田教授にご助言いただきながら、会場全体で福祉教育の協働実践について、理解を深めることができました。

【問い合わせ先】
福岡県社会福祉協議会
地域課
☎０９２-５８４-３３７７

地域交流センターは各種教室などで大盛況！

～地域住民に信頼された憩いの場となるために～

現在、厚生労働省「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」や内閣府「規制改革会議」等において、社会福祉法人制度について、各種制度改革が進められています。特に、７月４日に公表された「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」の報告書では、財務状況の不透明さやガバナンスの欠如に加え、**地域ニーズへの不十分な対応が課題として指摘されており、地域における公益的な活動の推進が提言**されています。

そこで、本県において、地域に根ざした地域貢献活動を行っている社会福祉法人の取り組みをご紹介します。

地域に欠かせない居場所へ

社会福祉法人キリスト者奉仕会（大牟田市）が運営する障害者就労・自立支援センター「たんぽぽ」は、地域交流センターを併設しており、平成19年の開設当初から、様々な地域貢献活動を行っています。

この地域交流センターは、地域住民が世代を超えて交流でき、今では地域で愛される場所となっています。



地域交流センターを支える職員の皆さん
左から、スタッフの沖中　久美子　さん、境　美智子さん、責任者の谷山　恵一 施設長

しかし、開設当初は順風な滑り出しではなかったそうです。

開設当初からの担当である境さんは、「開設前に、障害者施設の建設に一部の住民から反対がある等、地域の集会でたんぽぽの説明をしても、冷たい反応をされる方もいました。チラシを配っても、サークル活動等に人が集まりませんでした。」

それでも、境さんらが民生委員や福祉委員等に地道に説明を続けていった結果、現在では、貸し出している部屋は毎日のように教室が開かれ、新規申込みに対応できない状況です。

「この平原校区は、高齢者の１人暮らしがとても多い地区で、閉じこもりがちな人も少なくありません。ある日、高齢の男性の方からの『１人暮らしで毎日寂しい。話すことも、外に出ることもあまりない。』という相談を契機に、将棋教室を開催しました。他にも、地域の皆さんのニーズを聞きながらできる限りのことをしています。」と、境さんは話します。

お伺いした日には、健康マージャンとヨガ教室が開催されており、参加者の皆さんに話を聞くと「家に一人でいるよりも外に出てみんなと話す方がいいからね。」「ここに来れば誰かいるから、毎日でも行きたい。」「惣菜も売っているから一人暮しにはとても助かる。」との声がありました。お話をお伺いした全員が、**「こういう場所があってとても助かっている」と口々に話すなど、たんぽぽは、地域で欠かせない場となっています。**



各教室はいつも大盛況！

地域交流から地域貢献へ

谷山施設長は「社会福祉法人は、核となる社会福祉事業を行うだけでは、地域のニーズ把握が難しいと感じます。地域交流センターは、地域の高齢者、障害者等様々な人が出会い、交流する場であり、私たちの活動を知ってもらうと同時に地域ニーズを把握する貴重な場でもあります。また、単なる地域貢献ではなく、サークル活動の帰りに障害者の就労の場であるレストランで惣菜を買って頂けるなど、社会福祉事業にも相乗効果がでています。このセンターのように、地域の方に知っていただき、信頼される取り組みを行うことが、本来の社会福祉法人の姿ではないでしょうか。」と話していただきました。

社会福祉法人が行う地域貢献活動は、決して特別なことではなく、現在もそれぞれの法人が、様々な形で取り組んでいます。しかし、せっかくの取り組みも、地域の方に十分認知されていなければ、地域住民の信頼を得ることは出来ません。

地域交流の中からニーズを把握し、住民に信頼される地域貢献活動につなげていくことが、これからの社会福祉法人に求められています。

【問い合わせ先】
福岡県社会福祉協議会　施設課
☎　０９２-５８４-３３７７

ふくふくニュース

平成２６年福岡県社会福祉大会を開催します！

福岡県社協、福岡県共同募金会は、来る**１０月２１日（火）**、**クローバープラザ（春日市）**で、「平成26年福岡県社会福祉大会」を開催します。本大会は、県内社会福祉関係者が一堂に会し、社会保障・社会福祉制度の現状と課題を踏まえ、誰もが安心して暮らすことのできる元気な地域づくりに取り組んでいく契機として、また多年にわたって社会福祉の推進に貢献された方々の表彰を目的に開催します。

【大会日程】

13:00　開会（受付　12時）
13:05　「縁でつなぐ社会づくりへ～困窮者支援の実践から見る“本当の絆”とは～」（仮題）
認定NPO法人　抱樸　理事長　奥田　知志　氏
14:20　総会・式典
15:20　閉会

《講師プロフィール》滋賀県生まれ。関西学院大学神学部大学院修士課程卒業、西南学院大学神学部専攻科卒業。学生時代にボランティア活動に参加したことがきっかけで、以来、ホームレス支援に関わり続けている。１９９０年、日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会の牧師就任。２０００年、ＮＰＯ法人北九州ホームレス支援機構設立時に理事長に就任。また、ホームレス支援全国ネットワーク代表も務める。現在、北九州を中心に４カ所の自立支援施設を運営。活動開始後２５年で２，３００人以上のホームレスを自立へと導き、自立継続率も９割以上の実績を持つ。「無縁社会」と呼ばれる深刻な現実の中にあっても、真の「絆」を求め、その必要性を訴え続け、精力的な活動を行っている。

詳細は本会ホームページでもご覧いただけます　ＨＰアドレス（http://www.fsw.or.jp/）

九州の保育関係者が一致団結！～第１回九州保育３団体研究大会を開催～

平成２６年７月２３日（水）から２５日（金）の３日間にわたり、ヒルトン福岡シーホークで１８００名を超える参加者を得て、第１回九州保育三団体研究大会（大会実行委員長　万田　康　氏）を開催しました。

この大会は、「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」をテーマに九州における保育関係団体が一堂に会し、これまで各団体で実施していた研修大会等を一本化して開催した記念すべき第１回目の大会です。

１日目は、記念式典、平成２７年度の子ども・子育て支援新制度等についての行政説明が厚生労働省　雇用均等・児童家庭局保育課　幼児連携推進室　南　新平　室長から行われました。２日目は、保育・子育て支援に関する多様なテーマで８つの分科会を開催し、研究協議を深めました。また、特別分科会では淑徳大学・大学院　教授　柏女　霊峰　氏による「子ども・子育て支援新制度の概要と課題」について講演を行い、午後からは九州保育三団体の各会長を迎えてのシンポジウムを開催し活発な研究討議を行いました。３日目は、鳥越　俊太郎　氏による記念講演が行われ、最後の総会・閉会式では大会宣言の採択、次期開催県の佐賀県へ九社連保育協議会旗の引き継ぎが行われ、３日間の全日程を盛会のうちに閉会しました。



7月10日は納豆（7 10）の日！九州納豆組合様が児童福祉施設に27回目の納豆寄贈！

全国の納豆業者で組織する「全国納豆共同組合連合会」の各地域の納豆組合が、夏の体力消耗の回復と健康食品である納豆の普及を目的に、全国で毎年実施している事業で、平成５年以降毎年、九州納豆組合様から県内の児童福祉施設に納豆を寄贈いただいています。

寄贈いただいた３，８８４個の納豆は、７月１０日の朝、県内７０か所の児童福祉施設に届けられました。

食を通じた児童の健全な育成にご協力をいただき、関係者一同、大変感謝しております。

平成26年度



福祉施設の事故・紛争円満解決のために

ホームページでも内容を紹介しています
http://www.fukushihoken.co.jp

社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 （賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険）

❶ 基本補償（賠償・見舞）

保険期間１年職種級別Ａ級

▶補償金額

		基本補償（A型）	見舞費用付補償（B型）
賠償事故に対応	対人賠償（１名・１事故）	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償（１事故）	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償（期間中） うち現金補償限度額（期間中）	200万円 20万円	200万円 20万円
	人格権侵害（期間中）	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失（期間中）	1,000万円	1,000万円
お見舞い等の各種費用	初期対応費用（期間中）	500万円	500万円
	事故初期見舞費用（１名につき）	死　亡 10万円 後遺障害 0.3~10万円 入院時　3万円 通院時　1万円 （1事故で10万円限度）	死　亡 10万円 後遺障害 0.3~10万円 入院時　3万円 通院時　1万円 （1事故で10万円限度）
	利用者傷害死亡事故弔慰金		死亡（重度後遺障害） 100万円（78~100万円）
	利用者傷害事故見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

▶年額保険料（掛金）

	定　員	基本補償（A型）
基本補償（A型）	1～50名	35,000~61,460円
	51～100名	68,270~97,000円
	以降1名～10名増ごと	1,500円
見舞費用付補償（B型）	基本補償（A型）保険料 ＋	【見舞費用加算】 定員１名あたり 入所：1,300円 通所：1,390円

●オプション1 ●訪問・相談等サービス補償
●オプション2 ●施設の医療事故補償

❷ 個人情報漏えい対応補償

❸ 施設の什器・備品損害補償

プラン2 施設利用者の補償 （普通傷害保険）

❶ 入所型施設利用者の傷害事故補償　❷ 通所型施設利用者の傷害事故補償

（10口まで加入できます）

保険期間１年職種級別Ａ級

▶補償金額	１口あたりの補償額
死亡保険金	100万円
後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の４～100%
入院保険金（１日あたり）	800円
手術保険金	入院中の手術：入院保険金日額の10倍 外来の手術：入院保険金日額の５倍
通院保険金（１日あたり）	500円

▶年額保険料（掛金）	定員１人１口あたり
❶入所型施設利用者	1,310円
❷通所型施設利用者	990円

❸ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

施設送迎車に搭乗中のケガに対し、プラン２-❶、❷の傷害保険や自動車保険などとは関係なく補償

プラン3 施設職員の補償 （労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険）

❷ 施設職員の傷害事故補償

（10口まで加入できます）

保険期間１年職種級別Ａ級

▶補償金額	１口あたりの補償額
死亡保険金	140万円
後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の４～100%
入院保険金（１日あたり）	1,500円
手術保険金	入院中の手術：入院保険金日額の10倍 外来の手術：入院保険金日額の５倍
通院保険金（１日あたり）	600円

▶年額保険料（掛金）	定員１人１口あたり
施設役員・職員の１名１口あたり	3円（１日あたり） 780円（年間：週5日勤務の場合）

❶ 施設職員の労災上乗せ補償

❸ 施設職員の感染症罹患事故補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記までお願いします。●

社会福祉法人
全国社会福祉協議会
〈引受幹事保険会社〉株式会社 損害保険ジャパン
TEL：03（3593）6433

株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667　FAX：03（3581）4763

〈SJ13-12122 2014.2.13 作成〉

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約（「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」）です。
日本興亜損保と損保ジャパンは、関係当局の認可等を前提として、平成26年9月1日に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」になります。

ふくおかのふくし　147号　発行所／福岡県春日市原町３丁目１番地７　福岡県総合福祉センター（クローバープラザ）内　社会福祉法人　福岡県社会福祉協議会　TEL（092）584-3377 FAX（092）584-3369　発行日／2014年（平成26年）９月16日　編集発行人／小川弘毅　印刷所／株式会社　福田印刷



ウォークラリー交流大会



合唱フェスティバル



ふれあい市場

"はつらつ"と輝く



マスコットキャラクター
くるりん

第14回 福岡県ねんりんスポーツ・文化祭

メーンイベント

11月8日（土）

10:00～16:00

そぴあしんぐう

（糟屋郡新宮町大字上府 1121-1）

入場無料

大ホール

合唱フェスティバル
10:30～12:00

式典・記念講演
13:15～15:10



講師
あき 竹城 さん
（女優）

演題
「キラキラ輝く
人生のために」

小ホール

みんなで楽しむ「はじめての朗読会」
～おでかけそぴあinねんスポ～

開演時間
1回目 11:00
2回目 13:00
（各回50分）

語り手
徳永 玲子 さん



各種イベント

- ◆ふれあい市場
- ◆地域文化伝承コーナー
- ◆健康福祉コーナー
- ◆絵手紙体験コーナー
- ◆みんなで楽しむ体操コーナー
- ◆スポーツ・レクリエーション体験コーナー
- ◆おじいちゃん・おばあちゃんの絵コンクール
- ◆福岡県70歳現役応援センター出張相談会



テツ and トモ

スポーツ・文化交流大会については、平成27年1月まで随時開催
※詳しくは、ホームページをご覧ください

◆駐車場
そぴあしんぐう160台（無料）
◆臨時無料駐車場
新宮東小学校、新宮中学校

※JR新宮中央駅、新宮中学校、西鉄新宮駅と
そぴあしんぐうを結ぶ臨時送迎バス運行



主　催　福岡県、福岡県ねんりんスポーツ・文化祭実行委員会

お問い合わせ
福岡県ねんりんスポーツ・文化祭実行委員会事務局
福岡県社会福祉協議会
ホームページアドレス　http://www.fsw.or.jp
TEL　092-584-3377

11月は ふくおか みんなで 家族月間